

公益財団法人おかやま環境ネットワーク

～2013 年度事業・決算報告 2014 年度事業計画・予算～



2013 年度第 6 回体験プログラム 日生 アマモ種・選別作業体験

目次 contents

2013 年度事業報告	P. 1～11
2013 年度財務諸表等・監査報告書	P. 12～16
2014 年度の事業計画・収支予算書	P. 17～18
定款	P. 19～22

平素より格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。

本誌を通じておかやま環境ネットワークについて一層のご理解を賜り、身近に感じていただければ幸いです。今後も変わらぬご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

※活動は皆様のご支援に支えられています。ご入会・ご寄附等のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



公益財団法人 **おかやま環境ネットワーク**
Okayama Environment Network Foundation

～かけがえのない地球、未来のこどもたちへ～

2013年度の事業報告

はじめに

- ①. 2013年4月1日をもって「公益財団法人おかやま環境ネットワーク」へ移行しました。
- ②. 公益財団法人移行に伴い、新制度に沿った組織運営をすすめました。
- ③. 既存事業に加え、公益財団法人移行記念事業を実施しました。各事業実施にあたっては、第一に参加を増やし裾野を広げることをめざし、企画の見直しをすすめながら実施した結果、参加者は過去最多となり、他団体等との協働、連携、ネットワークもすすみました。

1. ネットワーク・広報・研究・助成事業

①. 環境活動交流会（助成報告会）

- ・県下で環境活動を行う団体や個人が集い、日ごろの活動を紹介してさらなる活性化、相互のネットワークの形成をめざし、6月15日(土)にオルガホールにて開催し、61名が参加されました。
- ・前半では、2012年度全助成団体からの活動報告と、その報告に対し、おかやま環境ネットワーク役員から講評がありました。i.里海づくり研究会議「ミニシンポジウム 日生を里海に」、ii.おかやまエコマインドネットワーク「食とエネルギーの地産地消を考える」、iii.中学高校環境研究会「第3回旭川源流大学 in 津黒高原」、iv.あかいわ美土里の和「里山再生プロジェクト」、v.おかやまコープ美作エリア「バイオマスって知ってる?」、vi.千年の森づくりグループ「千年の森の管理・保育事業と美咲の森完成記念のつどい」
- ・後半には、おかやま環境ネットワークの事業紹介や、県内で取り組みをすすめる団体等の実践事例を紹介し、これまで出会っていなかった人、団体、取り組みなどとなつながら“ネットワークづくりの場”となることをめざし、参加者間の情報交換をすすめました。i.岡山の自然を守る会「まちなかボタルで生きる“大都会”おかやま」、ii.㈱ハウジング山陽「協働の森づくり“伊部つながりの森”活動紹介」、iii.特定非営利法人岡山環境カウンセラー協会「東日本大震災復興支援活動」



●環境活動交流会

②. ホタル団体交流会・第11回ホタルフォーラム

- ・ホタル団体交流会を年3回開催（4月20日(土)：19名参加、7月13日(土)：19名参加、9月14日(土)：21名参加）し、ホタルの保全活動をとおした環境保全活動の交流をすすめました。
- ・第11回ホタルフォーラムを、11月9日(土)、美咲町・南和気荘にて、地元「柵原ホタルを守る会」の協力のもとに開催し、64名（20団体）が参加されました。冒頭、美咲町・定本一友町長並びに青山勲代表理事より挨拶がありました。その後、県内の取り組みとして、『大山川を守る会の取り組み』難波敏範氏・大山川を守る会、『ほたるの条例について』有本直紀氏・美作市田園観光部商工観光課係長、『ホタルは自然からのおくりもの』畝本和志氏・柵原ホタルを守る会の報告があり、会場内では活動紹介のパネルなどの写真展示もありました。午後からは、昼食交流の後、甲和気川・乙和気川を視察しました。



●第11回ホタルフォーラム



●第11回ホタルフォーラム

③. 第五回おかやま環境シンポジウム

- ・県内の様々な関係者とのネットワークを促進させるため、団体、専門家、事業者、個人、行政関係者が集い、情報交換・交流を行う機会確保を目的に、自然環境部会の企画・運営のもと2月1日(土)に開催し、52名が参加されました。
- ・今回は、「農」「環境」「地域づくり」をテーマにいくつかの先進事例を通して、持続可能な地域とは何か、それを実現するために、異なるセクターの連携や、都市部と農村の交流などについて考えるきっかけとなることをめざし開催しました。
- ・岡山商科大学経営学部教授・岸田芳朗氏の基調講演『未来につなぐ農と食』の後、無農薬有機肥料栽培米「菜々っ子朝日」生産農家・赤木歳通氏『草を刈って40年』、北庄中央棚田天然米生産組合長・西河明夫氏『都市との交流で「苦農」から「楽農」へ“棚田守り隊で棚田景観の再生と維持”』、生活協同組合おかやまコープ組織本部・星島康男氏『おかやまコープの地産地消・耕畜連携等による食料自給率向上の取り組み』の事例報告の後、参加者との意見交換を行いました。



●第五回おかやま環境シンポジウム

④. ニュース、ホームページ、メールニュースの発行

- ・「おかやま環境ネットワークニュース」を年4回発行し、個人、団体、企業の交流につなげました。
- ・月2回のメールニュースの発行と、ホームページの更新を通じ、情報提供をすすめました。
- ・ホームページ累計アクセス数は193,600件となりました(前年度末170,000、08年9月リニューアル時点:48,000件)。
- ・メールニュースの登録者数は積極的に各事業の参加者を中心に登録を呼び掛けた結果、昨年度末の808名から1,180名に増加し、各事業への参加申込は、メールニュースの返信によるものが多数を占めるようになりました。
- ・活動紹介パンフレットや事業・決算報告書をいろいろな機会に配布し、また、公益財団法人移行のお知らせと合わせ、活動紹介や会員獲得を図りました。
- ・公益財団法人移行記念事業の一つとして『未来に残したい岡山の自然・生き物写真コンテスト』に42作品の応募があり、理事会にて審査し、最優秀賞1点と優秀賞6点を決定しました。



●第五回おかやま環境シンポジウム
意見交換

⑤. 環境家計簿の普及


- ・2012年のモニター実績報告をまとめた「環境家計簿レポート」を7月に岡山市と協働で発行しました。報告は393世帯からあり(モニター数570)、その内2012年と2011年の2年間分の全データが揃ったのは206世帯、CO₂排出量は前年比6.3%削減、総量で79,376-CO₂kgの削減につながりました。



2013年4月おかやま環境ネットワークは、公益財団法人に移行しました

公益財団法人への移行のご挨拶

おかやま環境ネットワークは本年4月1日付で「財団法人おかやま環境ネットワーク」から「公益財団法人おかやま環境ネットワーク」に移行しました。つきましては、代表理事よりご挨拶申し上げます。



日頃からおかやま環境ネットワークの活動にご理解とご賛同を賜り厚くお礼を申し上げます。

さて、おかやま環境ネットワークは地域の環境意識を高め、2008年4月1日をもって、その名称を「公益財団法人 おかやま環境ネットワーク」とし新しい顔・姿を打ち出すことになりました。これまでのように各府県のご支援とご協力に厚く感謝申し上げます。

公益財団法人の移行により、組織設計を完了し、代表理事が就任するとともに各課長・課長補佐、理事・幹事会についても法的義務を有する職務としてスタートすることになりました。このことを皆様にお知らせするにとり、新たな決意を込めて、岡山の自然環境保護に関心を持って、継続的に関わり、発展のためにご協力をお願いいたします。引き続き、なお、皆様の御支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、この移行により、これまでの財団法人の全ての関係者様の公益財団法人が承認され、個人として同一性を保持して活動しますので、既存の契約等につきましては、移行の手続きをとりこなく有効であることをお知らせ申し上げます。

2013年5月6日
公益財団法人おかやま環境ネットワーク
代表理事 吉田 尚

●ネットワークニュース No.71

- ・2013年のモニター登録数は、岡山市の太陽光補助事業との協働などにより、前年度719世帯から今年度825世帯と多くの新規登録がありました。
- ・くらしの見直しにつながる啓発ツールとして、11月初旬に「環境家計簿カレンダー2014」を岡山市と協働で発行し、会員とモニターに送付しました。
- ・「住宅エコポイント事業」より23件・46,145円(累計108件、227,065円)の寄附がありました。

⑥. 助成事業

- ・2013年度は8団体に102万3千円助成しました。
- ・2014年度は10団体へ125.68万円助成します。
- ・これまで16年累計で、179団体に約1,815万円を助成することができました。

●2013年度助成事業・企画一覧

	団体名	企画名
1	千年の森づくりグループ	森・棚田・竹林の維持・保全活動
2	あかいわ美土里の和	里山再生プロジェクト
3	真庭ハンサキ調査団	まだまだ調べる真庭のハンサキ
4	おかやまエコマインドネットワーク	自然エネルギーってなんだ?ワークショップ
5	旭川源流大学実行委員会	旭川源流大学 旭川まるごと探検隊
6	岡山野生生物調査会	ワイルドライフ ウォチング
7	里海づくり研究会議	日生地域における里海像の設計
8	おかやまユブ倉敷エリア	瀬戸内の海を知ろう 漁業を通して

2. 啓発事業

①. 市民のための環境講座

- ・市民を対象に環境問題を正しく理解し、意識啓発や行動を促すことを目的に、より多くの参加をめざし開催しました。9回シリーズで岡山市と共催、岡山県生涯学習大学指定のもと開催し、過去最多の227名が参加されました。また、公益財団法人移行記念事業として『里海づくり～市民と考える里海の姿～』をテーマに上期4回シリーズで、NPO法人里海づくり研究会議と共催で開催しました。

・講師とテーマ

- 1) 7月27日(土)広島大学名誉教授・松田治氏『里海とは…人と海のつながり』
- 2) 8月10日(土)独立行政法人水産大学校理事長・鷲尾圭司氏『里海の生き物たち～海の幸の生態おもしろ話』
- 3) 9月7日(土)九州大学大学院工学研究院准教授・清野聡子氏『岡山県日生の歴史が育んだ里海像』
- 4) 10月12日(土)九州大学応用力学研究所教授・柳哲雄氏『市民のための里海創生論』

※1)～4):「里海づくりシリーズ」

- 5) 9月28日(土)吉備国際大学社会科学部教授・井勝久喜氏『環境問題を捉える視点』
- 6) 10月26日(土)岡山大学名誉教授・青山勳氏『原子力発電と放射能問題』

●助成実績一覧 ※金額:万円

年度	団体数	金額
99	5	65
00	7	100
01	13	110
02	13	137
03	16	150
04	11	102
05	15	147
06	15	129
07	12	120
08	15	150
09	11	94
10	10	93
11	12	100
12	6	90
13	8	102.3
14	10	125.68
合計	179	1,814.98



●市民のための環境講座
井勝 久喜 氏



●市民のための環境講座
青山 勳 氏

- 7) 11月30日(土)岡山理科大学理学部教授・野上祐作氏『岡山県下の水環境の現状を知る』
- 8) 12月14日(土)岡山県立大学名誉教授・伊藤國彦氏『生物多様性の意味について』
- 9) 1月25日(土)元岡山大学准教授・白井浩子氏『人間活動が地球に与える影響』

②. 体験プログラム

・次代を担う子どもの参加する取り組みを大切に考え、自然にふれ親しみ、自然との共生、自然の大切さ、いのちのつながりなどを伝え、自然環境や普段の暮らしを考えるきっかけをつくることを目的に開催しました。

・第1回：5月6日(月)『高島干潟いきもの観察会』

実際に干潟の中に入り、そこに棲むいきものたちと触れ合うことで、五感を通して豊かな「多様性」を感じるとともに、自然環境について考え、姿を消しつつある「干潟の役割」や「水の中のいのちのつながり」について考えるきっかけをつくることを目的に、児島湾高島干潟にて開催し、80名が参加されました。

岡山理科大学理学部准教授・齋藤達昭氏、関西高校教諭・吉鷹一郎氏を講師に、旭川源流大学実行委員会と共催し、当日は、講師による干潟の役割や現地のいきものについての解説と4班に別れ漁船で高島に渡り、いきもの採集体験と採集できたいきもの解説を聴き、干潟の役割とその大切さを実感しました。

・第2回：7月13日(土)『海ホテル夜間観察会』

自然にふれる体験を通じ、いきものいのちの大切さ、自然環境のすばらしさを実感し、自然の役割や海の現状など、くらしと自然環境の関わりを理解し、普段のくらしのあり方を見直すことにつなげるきっかけをつくることを目的に、倉敷市大浜海岸にて開催し、62名が参加されました。

関西高校教諭・吉鷹一郎氏を講師に、現地の自然環境やいきものについての解説の後、5班に分かれ、すそめを入れた瓶のしかけを海に沈めて採集したり、砂浜を移動し砂カニなどのいきものを観察しました。しかけの瓶にはたくさんの海ホテルが入っており、刺激を与えると、青い光が一気に広がり、神秘的な夜の海の不思議を体験しました。

・第3回：7月21日(日)『田んぼの生き物学校』

田んぼはお米の実る場所であると同時に、さまざまな生き物の棲家でもあります。田んぼのたくさんの生き物を実際に目で見て触れ、生きものを育む豊かさを知り、豊かな自然の中で作られた地元産米の安全性や環境保全の大切さを考えるきっかけをつくることを



●第1回『高島干潟いきもの観察会』



●第1回『高島干潟いきもの観察会』



●第2回『海ホテル夜間観察会』



●第3回『田んぼの生き物学校』

目的に久米郡の北庄棚田にて開催し、70名が参加されました。

田中康敬氏(自然体験リーダーズクラブ)、西河明夫氏(北庄中央棚田天然米生産組合・組合長)を講師に、生活協同組合おかやまコープ、岡山県生活協同組合連合会、岡山県消費者団体連絡協議会共催し、当日は、田んぼの生き物調査、棚田維持の取り組み学習、地元野菜を使ったカレーを試食しました。



●第4回アマモ再生教室

- 第4回：6月17日『アマモ再生教室 ～定植後の観察～』

アマモの役割や自然環境について学び、海への関心を深め、海洋資源の保全につなげることを目的に、笠岡市神島・見崎公会堂と近隣海岸にて生活協同組合おかやまコープ井笠エリアと共催で開催し、16名が参加されました。

当日は、2013年1月に定植したアマモの苗の成長を漁船に乗り観察しました。その後、公会堂で神島見崎里浜づくり代表・森中憲治氏のお話を聴き、アマモの役割や自然環境について学びました。



●第5回宇甘川いきもの調査会

- 第5回：10月27日(日)『宇甘川いきもの調査会』

岡山市北区御津・宇甘川流域にて、いきもの調査を、岡山理科大学理学部・斉藤達昭氏、岡山理科大学生物地球学部・中村圭司氏、岡山淡水魚研究会・中田秋穂氏を講師に、旭川源流大学実行委員会、宇甘川生き物調査プロジェクト世話人会と共催で開催し、81名が参加されました。

当日は、専門家の指導のもと、多くの淡水魚や水生昆虫を採集し、その解説を聴き、それらのいきものたちと触れ合うことで、自然環境の豊かさを実感し、環境保全の大切さについて学びました。また、昼食は、地元の皆様に用意いただいた「いのししカレー」を堪能しました。



●第6回アマモ種選別体験

- 第6回：10月12日(土)『アマモ種選別体験』

アマモの役割や自然環境について学び、海への関心を深め、海洋資源の保全につなげることを目的に、岡山県、日生町漁協、NPO 法人里海づくり研究会、生活協同組合おかやまコープと共催で開催し、42名が参加されました。

当日は、6月に採集し、海の中に保管していたアマモの花枝から、種を選別する作業を行い、保全活動・作業の積み重ねの大切さ、大変さを学びました(選別した種は1週間後に播かれました)。



●TPP 関連学習会
宇野 忠義 氏

3. 5月11日(土) TPP 関連学習会

TPPの概要やその経済的、政治的背景について学ぶことを目的に、弘前大学名誉教授・宇野忠義を講師に開催し、18名が参加されました。

4. 市民学習講座「瀬戸内海岡山県沿岸における水環境の実態とその維持、改善方策」

公益財団法人移行記念事業として、NPO 法人里海づくり研究会と共催で開催し、55 名が参加されました。

- ①.6 月 29 日(土)「岡山県沿岸における水環境、海岸災害(高潮、津波)の実態」奥田節夫・京都大学名誉教授
- ②.7 月 27 日(土)「河口、沿岸における藻場、干潟の変遷とその維持、保全計画」田中丈裕・NPO 法人里海づくり研究会理事
- ③.8 月 10 日(土)「貝殻利用による水産環境の改善効果」鳥井正也・岡山県農林水産部水産課

5. 他団体や行政などとの関係

①.第7回「水環境フォーラム in 岡山」

7 月 13 日(土)、(社)日本水環境学会中国四国支部岡山地域分科会、岡山理科大学環境教育地域支援研究会と共催で、『有害化学物質のリスク評価と管理の現状と今後の展開』をテーマに開催し、17 名が参加されました。

当日は、(公財)岡山県健康づくり財団室長代理・剣持堅志氏『環境中有害化学物質分析の進歩と課題』、独立行政法人国立環境研究所室長・中山祥嗣氏『環境中有害化学物質のリスク評価と管理の新たな展開』を講演していただいた後、総合討論にて意見交換をすすめました。

②.第8回「水環境フォーラム in 岡山」

第8回は2月22日(土)『水環境とこれからの養殖』をテーマに開催し、23名が参加されました。

当日は、高知大学・深田陽久氏『食品加工残渣の養殖魚飼料への有効利用』、(独)水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所・山本義久氏『閉鎖循環式養殖システムの開発とその実証技術』、岡山県農林水産総合センター・林浩志氏『里海の健康診断～モニタリングから見た水質変化～』を講演していただいた後、総合討論にて意見交換をすすめました。

③.「アマモのつどい」

6 月 29 日(土)、生活協同組合おかやまコープと共催で開催し、70 名の参加がありました。

瀬戸内でのアマモ場再生活動へのつながりを強め、アマモ場再生活動の輪を広げていくことをめざし、活動に関する団体、個人が集まり交流する場を持ち、今後のアマモ場再生の広がりにつながる取り組みをすすめました。当日は、日生町漁協・天倉専務、岡山県農林水産部水産課・後藤真樹氏、



●市民学習講座
奥田 節夫 氏



●市民学習講座
田中 丈裕 氏



●第7回「水環境フォーラム in 岡山」
剣持 堅志 氏



●アマモのつどい

里海づくり研究会議・田中丈裕事務局長、笠岡市立神内小学校の児童、NPO 法人共存の森ネットワークの大学生、おかやまコープ倉敷エリア・西山さんから報告がありました。

④.シンポジウム『これからの里海づくりを考える in 岡山～里山・里海・市民の視点から～』

11月6日(水)、NPO 法人里海づくり研究会議、環境創生研究フォーラム NPO 法人、生活協同組合おかやまコープ、NPO 法人瀬戸内里海振興会、日生町漁業協同組合と共催で開催し、91名が参加されました。

当日は、九州大学名誉教授・柳哲雄氏『市民のための里海創生論』、新庄村長・笹野寛氏『里山はつながりたい』、生活協同組合おかやまコープ全体理事・宮本紀子氏『つながる力で広がるアマモ場再生活動』の講演の後、広島大学名誉教授・松田治氏をコーディネーターに、上記3名に加え、日生町漁業協同組合専務理事・天倉辰己氏、香川県環境森林部環境管理課長・今雪良智氏、NPO 法人環境創生研究フォーラム理事長・小林悦夫氏、NPO 法人瀬戸内里海振興会理事長・山下江氏をパネラーに、会場参加型のパネルディスカッションをすすめました。

⑤. 行政などとの関係

- ・「岡山県協働による環境学習推進事業運営委員会」、「岡山E S D推進協議会運営委員会」、「岡山市環境保全審査会」へ参加し、役割を発揮しました。
- ・岡山市との共催、岡山県生涯学習大学指定のもと「市民のための環境講座」を開催しました。
- ・岡山市と協働で「環境家計簿レポート」「環境家計簿カレンダー」を発行しました。

⑥. 寄附・支援・共催等

- ・環境家計簿関連事業に、政府がすすめる「住宅エコポイント事業」より23件・46,145円(累計108件・227,065円)のご寄附をいただきました。
- ・全日信販株式会社より27,905円のご寄附をいただきました。
- ・岡山淡水魚研究会より22,196円のご寄附をいただきました。
- ・赤磐商工会より184円のご寄附をいただきました。

6. 法人管理等

①. 公益財団法人移行法人登記

公益財団法人への登記に向け、法務局と申請前の確認や各種提出資料を取り揃え、4月1日に公益財団法人として法人登記が完了しました。

②. 会員の状況

	団体	個人	企業等	合計
2013年度末	58	109	46	213
2012年度末	52	105	51	208

●2013年度入会の状況

	団体	個人	企業等	合計
入会	5	16	1	22



●シンポジウム

『これからの里海づくりを考える in 岡山』



●環境家計簿カレンダー2014



●環境家計簿レポート

公益財団法人おかやま環境ネットワーク役員・評議員

平成26年3月31日現在

理事 [任期] 平成24年評議員会開催日～平成26年の評議員会開催日

	氏名	略歴等
1	青山 勳	岡山大学名誉教授
2	秋山 秀行	(株)大町代表取締役社長
3	井勝 久喜	吉備国際大学教授
4	梶田 博司	元川崎医療福祉大学教授
5	榊 誠司	生活協同組合おかやまコープ執行役員(組織本部長)
6	清水 善朗	弁護士
7	白井 浩子	日本科学者会議岡山支部会員
8	塩飽 敏史	公益財団法人水島地域環境再生財団研究員
9	千葉 喬三	学校法人就実学園理事長
10	梅崎 一夫	生活協同組合おかやまコープ職員
11	野上 祐作	岡山理科大学特任教授
12	花口 光	岡山の自然を守る会事務局長・会長
13	三村 健	サンコー印刷(株)代表取締役
14	山本 章造	岡山淡水魚研究会理事

以上、理事14名 (50音順)

代表理事:青山 勳、業務執行理事:榊 誠司、梅崎 一夫

評議員 [任期] 平成25年4月1日～平成29年の評議員会開催日

	氏名	略歴等
1	伊藤 國彦	岡山県立大学名誉教授
2	大山 健二	岡山大学生活協同組合専務理事
3	北川 文夫	岡山理科大学教授
4	小橋 賢之	(株)建美装社代表取締役
5	近藤 紗智子	岡山の緑と水と空気を守る連絡会会員
6	田中 敦子	生活協同組合おかやまコープ有識者理事
7	田中 照周	生活協同組合おかやまコープ専務理事
8	日野 進一郎	日野環境デザイン研究所代表
9	檜山 伸吾	児島湖流域エコウェブ理事
10	平田 まき子	加計学園水質管理室課長
11	平林 明成	倉敷医療生活協同組合職員
12	福留 正治	岡山環境カウンセラー協会顧問
13	藤田 賢治	(株)フジタ地質代表取締役
14	山崎 晶弘	岡山医療生活協同組合組織部長

以上、評議員14名 (50音順)

監事 [任期] 平成24年日評議員会開催日～平成26年の評議員会開催日

	氏名	略歴等
1	赤坂 光俊	生活協同組合おかやまコープ常勤監事
2	横山 順二	岡山手延素麺株式会社代表取締役

以上、監事2名 (50音順)

顧問

	氏名	略歴等
1	奥田 節夫	京都大学名誉教授
2	河原 長美	岡山大学名誉教授
3	佐藤 國康	川崎医科大学名誉教授

以上、顧問3名 (50音順)